

身近な水環境を調べよう！

－ 「第19回 身近な水環境の全国一斉調査」参加のお願い －

全国水環境マップ実行委員会 実行委員長 小倉 紀雄
長野支部責任実行委員 沼田 清

「身近な水環境の全国一斉調査」は市民グループと国土交通省・（財）河川環境管理財団が連携し、実施しています。

本調査は、「バックテスト」という簡単な調査キット（無償で配布）を用いて、全国で一斉に調査を行い、その調査結果をわかりやすいマップとして表現することで、身近な水環境の様子が他地域と比較して良くわかります。

また、調査を10年20年と継続することでこの調査を通して水環境に関する市民の理解と関心が、いっそう高まることも期待されます。子供から大人まで大勢の皆さまの参加申し込みをお待ちしています。

詳細な調査結果は、本調査専用ホームページ(<http://www.japan-mizumap.org/>)や国土交通省河川局のホームページで公表されています。

調査日時 2022年6月5日（日）※世界環境デー（環境の日）に近い日曜日

測定項目 気温、水温、COD、その他（任意）

測定方法 取扱説明書に基づき、調査キットにて測定

（調査キットは参加申込者に毎年5月頃事前に配布予定）

参加ご希望の方は 上記ホームページから参加申込用紙をダウンロードの上

2022年3月10日までにE-mailまたはFAXで申し込みができます。

全国一斉調査 お申し込み先

FAX：042-327-3169 E-mail：mizutomidoriken@ybb.ne.jp

なお、ご不明の点は下記の信州水環境マップ・ネットワーク事務局宛てにご一報ください。また、ご記入いただいた個人情報は今回の調査に関する連絡以外に、ご本人の許可なく使用いたしません。

信州水環境マップ・ネットワーク事務局 沼田 清

〒389-0206 長野県北佐久郡御代田町御代田 2538-11

電話 0267-32-8608 携帯 090-9801-6671 E-mail：ecolabo@rondo.ocn.ne.jp

Web：<http://shinsyu-mizumap.midorinooka.net/> この中の長野県水環境マップ

webマップ版を開いて過去数年分の変化を比較しつつご覧ください。

2021年 第18回身近な水環境の全国一斉調査	
長野県版マップ 調査地点 183ポイント	
番号	調査グループ名
1	NPO法人 みどりの市民
2	NPO法人川の自然と文化研究所
3	エコロボクラブ
4	グリーンヒル友の会
5	せせらぎねばねつと
6	たがわ水辺を守る会
7	リサイクルシステム研究会
8	下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会
9	軽井沢水楽会
10	軽井沢風越学園
11	戸隠地質化石博物館
12	小諸ミズオオバコ保全会議
13	小諸市立坂の上小学校四年生
14	小諸市立美南が丘小学校クラブ活動
15	信州大学環境学生委員会
16	諏訪湖クラブ
17	千曲川水生昆虫研究会
18	天竜川総合学習館かわらんべ
19	湯川 水の会
20	法政大学水文地理学研究室
21	飯水自然調査研究委員会
22	他に個人参加は2名

【2021年度全国一斉水質調査講評】

2021年度全国一斉水質調査に参加された21グループと個人参加の皆様、コロナ禍2年目を迎えての大変な時期にもかかわらず今回もご協力いただき有難うございました。今回は小学生の参加も復活でき、参加団体数も21団体と個人の方で大きな変化はなく、調査地点も183地点と、昨年と同数の地点で観測をしていただきました。昨年までと同様に、その結果を地図にまとめました。コロナ騒動2年目の中での観測という状況も加味してご覧ください。

今年も長野県下で測定された183地点中の71%が水質良好でした。これは昨年の測定結果（77%）と比べると若干悪い数字です。減った地点の水質はやや悪い段階へ移行していますが、天候の差、調査した人にも差があることを考えれば単純に比較はできませんが、コロナ禍という異常事態が河川水質にまで影響する事態とはなっていなかったということでしょう。しかし、水質要注意の赤いマークが今年度も依然として長野市周辺に集中しているのことが、新たに増えた地点があることは気になります。新型コロナの感染拡大の影響により生活での水利用にも変化があり、地域ごとの気象条件の差もありますが、長野市をはじめとして、赤マークの近くに住まわれている人たちのなお一層の努力を期待するところです。

社会全体が高齢化しつつある時代ではありますが、調査の継続性を考えると、長野県内でも若い世代の方々により多くの参加が期待されます。そして、矢作川グループなど、県外の方々の協力を得ながら、長野県の水環境をさらに良好に維持していくために、それぞれの日常生活での水に対する気配りをお願いします。

今年の観測も新型コロナの影響で全国的に参加者数、観測地点数、そして観測日の統一に影響がありました。しかし、どのような変化があっても、長い目で見れば観測を継続することが大切です。今年の観測結果も後になってみれば社会と水質の関係を知る上で貴重な資料の一つとなるはずですよ。（沖野外輝夫記）